

後援： 名古屋大学アジア共創教育研究機構
愛知大学同窓会北京支部

経済環境分野研究会公開ワークショップ <言語：日本語・中国語>

一帯一路構想における 環境・資源エネルギーの新たな局面

— 新しいアジアの環境・資源エネルギー論

を先導する日中対話 —

対話形式で
核心に迫る

登壇者

中国人民大学
許 光清

長岡技術科学大学
李 志東

愛知大学
李 春利

中国石炭科工集団
石炭戦略院
秦 容軍

自然資源保護協会
楊 富強

愛知大学
高橋 五郎

名古屋大学
薛 進軍

モデレーター
愛知大学 大澤正治

(敬称略)

2018年 5月19日 (土)

13:00~17:00

(終了後、意見交換のための懇親会開催、参加費：1人1,000円)

於：愛知大学名古屋キャンパス厚生棟3階会議室

<参加・懇親会申込み、お問い合わせ>

愛知大学国際中国学研究センター (ICCS) 事務室
〒453-8777 愛知県名古屋市中村区平池町 4-60-6
Email: iccs-sympo@ml.aichi-u.ac.jp

URL: <http://iccs.aichi-u.ac.jp>
TEL: 052-564-6120

本ワークショップが目指すところと背景

「宇宙船 地球号」に象徴されるグローバルな視野は 1992 年の地球サミット以降、すっかり定着化し、経済、文化とともに環境問題エネルギー問題も世界の共通基盤であることの認識は深く浸透している。このような国境を超える挑戦に、中国の「一帯一路」構想は、五通（政治、インフラ、貿易、資金、民心）のネットワーク強化を旗印として挑んでいる。

エネルギー分野にもいよいよ「一帯一路」構想は踏み込んだ。2017 年 5 月国家発展改革委員会と国家能源局は「一帯一路エネルギー協力クラブ」創設を提唱した。

本ワークショップでは、「一帯一路」構想がひらく環境・エネルギー資源のアジアにおける新たな局面に焦点をあて、世界的な資源制約、環境制約の深化をふまえ、環境・エネルギーの新たな価値とその価値を求める新たな制度について日中間の対話を通じて検討し、日中の新たな連携に秘められた可能性を模索する。

一般的に、私たちの経済、暮らしを支えるエネルギーを安全に使いやすく利用するためには、エネルギー輸送し、エネルギー変換技術を用いて高付加価値化するので手間がかかり、その取り引きは物々交換のように単純にはいかない。

しかも、エネルギーは、国際公共財として国境を超えて調達すべきところと地産地消を基本として考えるべきところの均衡が重要となる。

そのバランスをとるためには、政治、社会、技術、情報そして市場の要素などに配慮することが大事となる。「一帯一路」がおおむねの国々におけるエネルギー資源分布、エネルギー需給の固有性を尊重し、活かすとともに国際的な制度・ルール、ビジョン、そしてエネルギー輸送ネットワーク整備のもとに展開するエネルギー貿易の拡大にも期待すべきである。

そのために、アジアでは、進展する「一帯一路」エネルギー協力の効用を様々な観点から分析し、見極めることが、今、緊急に求められる。（大澤正治）

プログラム

<モデレーター 大澤正治>

- オープニングセッション～新しい時代の研究方法論（13:00～14:30）
 - ・ 開会あいさつ「本ワークショップを開催する意義」（愛知大学教授 ICCS 所長 周星）
 - ・ 「現代中国学の新たなアプローチ」（愛知大学教授 高橋五郎）
 - ・ 「環境への新しい人文社会科学アプローチ」（中国人民大学准教授 許光清）
- 日中対話セッション ～環境・資源エネルギーの新しいアプローチ（14:40～16:00）
「一帯一路時代のアジア環境・資源エネルギー、その安定した持続性を求めて」
- クロージングセッション～ 次のステップへ（16:00～17:00）
 - ・ 本ワークショップのコメントと「環境・資源エネルギーの日中の連携」（愛知大学教授 李春利）
 - ・ 聴講者のご意見を伺いつつ、聴講者への感謝をこめて総括（愛知大学教授 大澤正治）

※ 9:00～12:00 に、本ワークショップのための準備として、登壇者によるラウンドテーブルをおこないます。
傍聴をご希望の節は、事前に申し込んでいただくようお願いいたします。